中京大学　心理学研究科・心理学部紀要
第 18 巻 第 1 号（2019）　51 ― 52 頁

〈研究ノート〉

# 司法領域における TAT の活用

和歌山少年鑑別所　浦田　洋

Practical use of the Thematic Apperception Test in forensics

URATA, Hiroshi (Wakayama juvenile classification home)

Japanese psychologists who work in forensics and correctional settings traditionally use the Thematic Apperception Test (TAT) to clarify the mechanisms of crime and delinquency.

The subjects to whom the psychologists administer TAT mainly committed crimes such as murder, robbery, rape, molestation, or arson.

A psychologist from the Japanese Ministry of Justice, Fujita (2001), developed the Frame of Information Analysis to analyze the TAT narratives, which is often used by many Ministry of Justice psychologists.

Saito(1998) reviewed the use of TAT in the criminal justice field from the 1950s through to the 1990s and divided it into four terms. Although TAT studies have generally declined, professionals in the criminal justice field continue to use TAT enthusiastically.

Key words: TAT, psychologist, Ministry of Justice

心理検査は，伝統的に法務省に勤務する心理専門職が非行・犯罪領域で頻繁に業務に活用してきた。特に，投映法については，ロールシャッハ法の片口(1987)，高橋（高橋・北村，1981)，空井（1991）及び上芝（2007)，TAT の安香（1990)，坪内(1984)，藤田（1991）等いずれもかつて心理専門職であった。

TAT の研究者については，かつて鈴木（1992）が，安香について「各図版の特質を知悉しておくことが TAT の実施と解釈の必須条件であるという考えから，各図版の特質についてかなり詳しく述べている。その叙述は大きく Henry（1956）に依拠している」(p. 20）と，坪内について「TAT を図版の各々について，そこでの解釈のポイントや特異反応を述べている。しかし，文献に依拠している部分が大きく TAT 図版全 31 枚中の 17 枚については完全に Henry，Bellak ら，外国の著者の諸説の紹介にとどまっている」(p. 20）と評している。早逝した坪内はともかく，安香に直接指導を受けた経験がある，筆者を含めた現在中堅以上の心理専門職は，言わば，Henry の孫弟子ということになる。

投映法が非行・犯罪領域で盛んに活用されてきた理由の一つとして，上記のような我が国を代表する投映法の研究者が，大学卒業後，当時，数少ない心理専門職の職場であった法務省矯正局の心理専門職を選択したという事情があるだろう。

一般的に非行・犯罪領域で，投映法を実施する対象としては，罪名では，殺人，傷害致死，強盗（致死傷)，強制性交（致死傷)，放火等，犯行の心理機制を詳細に明らかにする必要がある犯罪や，その他の犯罪でも，手口や動機が特異で，しかも当事者自身がそれを的確に説明できず，理解が難しい犯罪が挙げられる。その中でも，TAT は，対人関係や対人認知の特徴を詳しく調べたい場合に実施することが多い。さらに，TAT はロールシャッハ法と比べて，精神疾患の診断には不向きだと言われるが，それでも，犯罪に係る対象者に固有の認知の偏りや関心の方向を明確に示し，対象者自身の体験世界がよく反映されることも，上記の犯罪等に対してよく実施される背景にある。

なお，傷害，暴行等のいわゆる粗暴事犯の対象者に対する TAT の施行は以前から行われており，著名な文化人類学者で日本人研究で有名な De Vos と名大法のロールシャッハ法で著名な村上は共同で(De Vos & Murakami, 1974)，少年鑑別所・少年院・刑務所に在所・在院中の非行少年や犯罪者に対し実験群の被験者として TAT を施行している。

TAT の分析法として，安香の後継者である藤田(2001）は，情報分析枠（FIA）を提唱したが，そこには，「解釈は 100%その解釈者の依って立つ理

論によって決定づけられるものでさまざまに異なることはありえるが，分析はどんな理論的な立場に立つにせよある程度共通の技法が存在する」(p. 2) という安香の主張が背景にある。この FIA は，法務省の心理専門職が TAT を分析する際に比較的よく用いている。

司法領域での TAT の活用に係る今後の課題としては，司法領域に特化した反応分類を示すことがある。我が国の反応分類の先駆けである鈴木（1997）の反応分類表は，膨大で多岐に渡る被検査者のデータが基になっているが，そこでの司法領域のデータは，シンナー乱用少年 20 人分のみである。そのため，我々の対象者に見合った分析を行うには，多様な犯罪を惹起した非行少年や犯罪者のデータに基づく司法領域に特化した反応分類を行う必要がある。また，実施図版の選択についても研究が必要で，例えば，第 13 B 図版は，我が国の TAT 研究者がほとんど使用していないと思われるが，司法領域の対象者，特に非行少年に実施すると実り多いプロトコルが得られるということは多くの心理専門職が感じているところであり，こういった実践者による感覚を踏まえた，司法領域版の図版選択を提唱することも有効と考える。

齊藤（1998）は，TAT が我が国に導入されてから 1990 年代の終わりまでの司法領域における TAT 研究を 4 期に分けて概観している。それによると，第 1 期（1950 年代から 1960 年代）は，米国での活発な TAT 研究に対応するように，我が国でも草分け的な研究がなされていたが，司法領域でもその最早期から TAT 研究がなされていたこと，第 2 期 (1970 年代）は，ロールシャッハ法と違って，客観的・標準的な分析手続きと解釈方式が確立されなかったことから，米国においてはその活用が次第に敬遠されるようになった一方で，我が国の司法領域では引き続き地道な研究が継続されていたこと，第 3 期 (1980 年代）は，内外ともに TAT 研究が最も低調になった時期にもかかわらず，我が国の司法領域では，精力的な実務研究が続けられ，その成果としてエポックメイキングな解釈手引書が刊行されたこと，第 4 期（1990 年代）は，内外ともに TAT の面白さが見直され始め，主に矯正施設で勤務する心理専門職による研究が活発に行われるようになり，犯罪者・非行少年の自己像・両親像，対人関係や課題解決様式など，司法領域における独自のテーマが追及されるようになったこと，と特徴づけている。

齊藤による概観から 20 年を経ようとする現在，2000 年以降の概観も必要になっていると考える。

付記

本論文は，2018 年 11 月 18 日に行われた TAT パーソナリティ研究会第 150 回記念大会の講演記録をもとに作成された。

**文献**

安香宏（1990）．TAT．土居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・木村敏（編集）異常心理学講座 8 テストと診断．みすず書房．pp. 120-169.

De Vos, George A. & Eiji Murakami (1974) Chapter 12: Violence and Aggression in Fantasy: A Comparison of American and Japanese Lower-Class Youth. In William Lebra (Ed.), *Youth, Socialization and Mental Health*. Honolulu: U. of Hawaii Press.

藤田宗和（1997）．臨床事例から学ぶ TAT 解釈の実際．新曜社

藤田宗和（2001）．TAT の情報分析枠（the Frame of Information Analysis）の提案：プロトコル分析のための新しい枠組み 犯罪心理学研究，39(29), 1-16.

Henry, W.E. (1956). *The analysis of fantasy*. New York: John Wiley & Sons.

片口安史（1987）．新・心理診断法．金子書房

斎藤文夫（1998）．わが国の矯正臨床における TAT 研究の歴史と動向．追手門学院大学人間学部紀要，7, 1-25.

空井健三（1991）．臨床心理学の発想―アセスメントの効用から諸領域へ．誠信書房

鈴木睦夫（1992）．TAT 解釈技法に関する基礎的研究―図版ごとの反応分類を中心とする接近法―大阪市立大学博士論文

鈴木睦夫（1997）．TAT の解釈―物語分析の実際．誠信書房

坪内順子（1984）．TAT アナリシス―生きた人格診断．垣内出版

高橋雅春・北村依子（1981）．ロールシャッハ診断法 I．サイエンス社

上芝功博（2007）．改訂増補 臨床ロールシャッハ解釈の実際．悠書館